

復 命 書

18年8月14日

静政会 代表

伊東 稔浩 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

記

1 日 程

18年 8月 12日(土)

2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

東京都千代田区

女性のための政治スクール参加

3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

「環境とe-learning」 講師: 松田美夜子氏(富士常葉大学教授)

4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

ごみはすてきな魔法つかい ～廃棄物政策はどう変わるか～

松田美夜子氏 富士常葉大学教授・生活環境評論家

環境先進国オランダの話。風車、ソーラー、バイオマス発電などエネルギーの自立ができている話は真似できないことだ。風力発電のようなクリーンエネルギーは日本はまだまだだと感じました。

ごみをどうするか? キーワードは3R。Reduce (リデュース) 発生抑制 Reuse (リユーズ) 再使用 Recycle (リサイクル) 再資源化が大事なこと。その推進には、市民と行政、企業の役割分担がある。大量リサイクルの問題、地球温暖化との関わりなど深刻なことも進んでいる。そこで、行政側、中央環境審議会が答申を出しました。プラスチックの埋め立て禁止。分別再生利用の推進。ごみ有料化の推進などである。プラスチックの対策・容器リサイクル法の推進、最後に残ったものだけを焼却、熱回収率の設定

などがそれ。静岡市は、プラスチックの分別は徹底していない。高温処理ができるから大丈夫ということのようだが、分別したほうがいいと思うのだが。。。

ごみを1割減らすと、年間の日本のごみ処理費2兆1000億円の1割2100億円の経費節減になる。

一人当たり1日1000グラムのごみを出しているが、100グラム減らす、コップ半分の水、生ごみの水切りでできるはず。というのには驚きで、できるような気がする。ごみ減量。元気な市民のまちは、(ごみダイエット) サポーター宣言をしているという。私たちに何ができるか考える時だ。日本のごみ先進市横浜市は、2焼却施設の閉鎖で、1100億円節約したと言う。北九州市は、ごみの有料制導入で、年間45・8億円の経済効果が出ていると言う。人口とごみは比例するものではなさそうだ。静岡市は、熱回収率の設定が低いということのようだ。真剣に考えていかなければならないと痛感した。ドイツの話は実際見てみたいと思う内容だった。